

FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌
Vol.09



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

「未来への兆し」

相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら
館長 坂野 浩一



2022年度は、“Withコロナ”の営業体制の中、3密防止対策として土日祝日や繁忙期には飼育解説イベントや展示装置の一部休止、また入館者数制限を行わざるを得ませんでした。しかしながら、多くのお客様にご理解・ご協力をいただきまして、入館者数22万7千人超の過去最多入館者数実績となりました。

指定管理者2期目(2019年4月～2024年3月)では、新たな展示水槽の増設に取り組んで来ましたが、2022年6月には「海の生き物水槽」をお子様の目線でも見やすいように低い水槽に変更し、解説しやすいモニターも設置しました。

久しぶりに来館されたお客様から「これまでになかった水槽が増えて嬉しい」とのお声もいただきました。水族館として新たなチャレンジを続けていることが、多くのお客様のご来館に繋がっていると感じています。

2022年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻が継続する中で、「民主主義」国家と「権威主義」国家さらに「グローバル・

サウス」の国々に分かれ混沌とした世界情勢となりました。世界の国々が資源や食料などの確保に動き、物価高騰に陥りました。またアジアの平和を脅かす懸念も高まっています。

SDGsの理念を共有して世界中の国々が未来に向けて動き始めていたのに、世界はまた不安定な状況になってしまいました。

国内でも、安倍元首相の暗殺事件や特殊詐欺の凶暴化など、いつの間にか安全神話が崩壊し、また生活面も電気料金高騰や諸物価高騰もあり将来への不安を感じる状況となっています。またコロナ禍を通じて「価値観」や「ライフスタイル」の変化も散見されています。

きっと、今は未来に向けた社会の構造変革が起こり始めている時機かもしれません。

2023年度は指定管理者制度2期目の最終年度となります。私たちは、水族館に来館される皆様に生き物の魅力をご紹介しますが、観察や体験を通じて“驚きや発見”のある学びから子どもたちが健やかに成長し、皆様が笑顔になっていただけるように、これからも日々の仕事に誇りを持ち、新たなチャレンジを続けていきます。

はじめに	2
調査・研究	3
地域連携	4
他団体・他機関との連携	6
ふれあい田んぼ探検隊	7
館外イベント	8
特別企画展	
◇メダカ展	10
◇アマゾン展	12
◇昔と今の生き物展	14
◇相模のカニ展	16
マンスリー水槽	18
ミニトウ水槽	19
海の生き物水槽	20
小川の実験観察テーブル	21
水辺の生き物水槽	22
インターンシップ	
ものづくりワークショップ	23

調査・研究

伊藤 寿茂

相模川ふれあい科学館では、他機関と連携して身近な自然を調査・研究しています。生物の生態や分布について分かったことを、展示や論文のかたちで皆様にご覧頂けるようにすることで、その普及啓発に努めています。



調査 江の島の潮間帯動物相調査
(新江ノ島水族館ほか2機関に所属する有志と協働)
参加日：2022.4/19・5/17
参加者：伊藤寿茂
1986年から5年おきに行われてきた江の島の潮間帯動物相調査に参加し、200種類以上の生息を確認しました。論文として投稿・受理され2023年3月29日に公開されました。



調査 三浦市内でのメダカ生息環境調査
(神奈川県水産技術センター内水面試験場に協力)
参加日：2022.7/14
参加者：山田一輝
三浦半島の在来メダカの生息環境調査に参加しました。メダカの生息環境は良好に保たれており、周辺に希少な軟体動物や甲殻類の生息も確認されました。



調査 ミヤコタナゴの保護育成にともなう個体数調査
(横浜市教育委員会に協力)
参加日：2022.11/7
参加者：伊藤寿茂、竹本淳史
屋外池で飼育管理されているミヤコタナゴの繁殖状況調査を兼ねて、飼育設備の落水清掃と個体の計測を行いました。



研究 伊豆沼・内沼研究報告 Vol.16
(査読付論文) 2022.7 掲載
論文タイトル：ミナミアシハラガニ
Pseudohelice subquadrata (Dana, 1851)
(モクズガニ科)の北限および相模川初記録
著者：伊藤寿茂(相模川ふれあい科学館)、
崎山直夫(新江ノ島水族館)
2022年4月に相模川の下流域で見慣れないカニ「ミナミアシハラガニ」を見つけました。これが相模川からの初記録で、世界最北限の生息記録でもあることが分かりましたので、論文として公表しました。

地域連携

近隣の幼稚園・保育園・学校との取り組み

『総合的な学習の時間』(田名小学校 3 年生)



今年は2年ぶりに田名小学校との活動を行いました。相模川を題材とした環境学習の一環として、7月5日に相模川に集まり、川に入って石や生き物を手に取って観察しました。石について説明すると、みんな足元の石を次々に拾って「これは?」「こっちは?」と質問の嵐でした。石の名前をどんどん答えながら「さあ、そろそろ川に入ろう」と促し、いざ、生き物採集です。浅い場所での採集だったため、魚はあまり採

れませんでした。石のすき間にひそむヒゲナガカワトビケラの幼虫やカジカガエルのオタマジャクシがたくさん採れました。一見、何もいないと思っていた場所にも多くの生き物が潜んでいることを知り、子供たちは大興奮でした。未だコロナ禍の真っただ中で、こうした活動はひかえめとなっておりますが、徐々に機会を増やしていけたらと思っています。

『総合的な学習の時間と田名北水族館』(田名北小学校 3 年生)



2022年3月25日から4月24日まで、館内のエントランス通路で「田名北水族館」を実施しました。これは、2021年度の田名北小学校3年生の総合的な学習の時間での取り組みの集大成です。相模川で生き物を採集し、水槽を準備して、どんなふうにしたら上手に飼育できるのかを自分たちで考える。この過程には、子供たちにとってつらい出来事もありましたが、それらを乗り越えて、深く生き物たちや相模川の自然について学べたのではないかと感じています。

2022年度は、昨年の先輩たちの取り組みを見てきた子供たちが取り組んでいます。7月に出張授業に行った時も、子供たちの熱量に圧倒されました。10月に相模川で生き物採集を行い、飼育できる種類と数を考えたうえで、事前に学校に準備しておいた水槽に持ち帰りました。

昨年度とは違った切り口で考え、取り組む総合的な学習の時間。子供たちの自主性が生きた授業となりました。



『田んぼ体験』(田名幼稚園、友愛保育園、桑の実保育園の園児たち)



今年も、当館屋外スペースにある「ふれあい田んぼ」で、近隣の田名幼稚園と友愛保育園、桑の実保育園の園児たちに田植えや稲刈りなどを体験してもらいました。みんな泥だらけになりながらも、笑顔で楽しく体験していました。田んぼでの活動を通じて、お米作りの大変さや、食の大切さを学んで頂けたと思っています。



『稚鮎放流会』(田名幼稚園)

毎年、アユが遡上してくる5月に実施する稚鮎の放流会。今年はあいにく開始時に小雨がぱらつく天気となりましたが、田名幼稚園の元気な園児たちと一緒に放流を行うことができました。



『花苗植え』(友愛保育園)



当館は春(6月)と秋(11月)に友愛保育園の園児たちと一緒に、相模原市まち・みどり公社が行っている「花のまちづくり・みどりいっぱい運動」に参加しています。

春には赤と青のサルビア、ニチニチソウ。秋にはパンジーとビオラをおさかな型の花壇に植えました。今年も色とりどりの綺麗な花壇が出来上がりました!

園児たちとみんなで作った花壇もぜひ見に来てくださいね。

他団体・他機関との連携

ミニ企画展示「もっと知りたい相模の自然」

亀ヶ谷 千尋 伊藤 寿茂

「もっと知りたい相模の自然」をテーマにした企画展示も今年で6年目です。神奈川県は日本の中でも開発が進んでいて、自然が失われた地域も少なくありません。それでもなお、当館のある相模原市や相模川の流域、その先の海には、まだまだ紹介しきれていない自然が残されています。それらの価値を後世に伝えるために、数々の団体や機関が調査活動を行っており、様々な方法で普及啓発に努めています。当館では、その役割をミニ企画展示が担っています。小さな展示ブースですが、その内容は私たちだけでなく、多くの協力者の労力と学識、そして探求心の賜物でもあります。この場を借りて、ご協力を頂いている方々に心よりお礼を申し上げます。

幻の魚 ～丹沢ヤマメ～

生物種/ヤマメ(丹沢ヤマメの半天然魚)

神奈川県に生息するヤマメは、その多くが養殖された放流個体で、元々生息していた在来のヤマメは絶滅したと考えられていました。

しかし、神奈川県水産技術センター内水面試験場などの調査により、相模川水系や酒匂川水系の一部で在来の可能性が高いヤマメが残っていることが分かってきました。それが「丹沢ヤマメ」です。内水面試験場では、丹沢ヤマメの調査とともに、飼育下での繁殖が難しい在来ヤマメの「半天然魚」の研究にも取り組んでいます。

協力：神奈川県水産技術センター 内水面試験場
期間：2022.4/12～7/10



泳ぐ？魚を獲る!? ～カワネズミ～

生物種/カワネズミ(剥製標本)



カワネズミは、日本に生息する哺乳類の中では珍しく、生活の場として水中を利用するモグラの仲間です。山間の溪流周辺に生息し、潜水しながら魚や水生昆虫などを捕まえます。1日に体重の半分近くの餌を食べ、冷たくきれいな溪流でくらすカワネズミは飼育がとても難しい生き物です。そこで、神奈川県立生命の星・地球博物館にご協力いただき、貴重なカワネズミの剥製標本をお借りして、ちょっと変わったカワネズミの生態をご紹介します。

協力：神奈川県立生命の星・地球博物館
期間：2022.7/12～9/11

相模川で初記録！ミナミアシハラガニ

生物種/ミナミアシハラガニ(標本)、ハマガニ、アシハラガニ



2022年4月に相模川の下流域で見慣れないカニを見つけました。新江ノ島水族館の崎山直夫館長と協力して調べたところ、南方種ミナミアシハラガニだと分かりました。このカニが過去に相模川から見つかったことはなく、その世界最北限の生息地であることが分かりました。そのことを学術雑誌に論文として投稿し、この夏に掲載されました。展示では論文に記載されたミナミアシハラガニの標本を展示するとともに、同じ場所に生息する2種類のカニを生体展示し、発見から論文掲載までの経緯を分かりやすくご紹介しました。

協力：新江ノ島水族館
期間：2022.9/13～10/30

古相模川・境川河口にすむ“川ヤドカリ”

生物種/ユビナガホンヤドカリ、ホンヤドカリ、コブヨコバサミ

新江ノ島水族館の職員が中心となり、江の島の潮間帯で動物相の調査が続けられており、当館職員もそれに参加しています。江の島の北西岸は大昔の相模川でもある境川の河口に位置する汽水域で、そうした環境を好む動物たちが生息しています。今回はその中からヤドカリ3種をピックアップし、河口を再現した水槽でご紹介しました。

協力：横須賀市自然・人文博物館、
神奈川県立生命の星・地球博物館、
新江ノ島水族館
期間：2022.11/1～2023.1/29



ふれあい田んぼ探検隊

展示飼育部 西田 征晃

今年度のふれあい田んぼ探検隊では、昨年までの品種「はるみ」ではなく、新たに「てんこもり」を育てることになりました。初めての品種ということもあり、田植えをしてから収穫ができるまでのおよそ5ヶ月は、しっかり育ってくれるか例年以上にドキドキでした。収穫祭では、タイ米などの食べ比べも行いました。新たな品種「てんこもり」は、とても美味しく、今後見かけることがあれば買って食べてみたいと感じました。

また、昨年唯一の雨天中止となってしまう生き物観察会は、天気に恵まれ無事開催できました。私自身、知らない生き物(主に昆虫)にも出会い、新たな発見がありました。来年度も多くのお客様のご参加をお待ちしています。



<館外イベント>

親子で磯観察ツアー

2022年5月15日(土)

山田 一輝

2019年を最後に、実に3年ぶりの開催となりました。久しぶりの開催で不安もありましたが、多くのお客様にご応募いただき復活を飾ることができました。イベント中には、ヤドカリやカニの仲間、魚や貝などたくさんの生き物を観察することができました。中には変わり種でクサガメを当館飼育員が発見しました。クサガメは磯にはいない生物なので、おそらく近くの川から流されてきたものだと思います。予期せぬ形お客様に「川と海のつながり」を実感していただけたのではないのでしょうか。



親子で川釣り体験ツアー

2022年10月2日(日)

竹本 淳史

久々に川釣り体験ツアーを実施しました！コロナ禍や台風の影響などでここ数年できなかったのが、前回の記憶はあやふやです。そこで、釣りをする場所や方法も新しく考え直しました。

以前は足場がしっかりした護岸の上から釣りをしていましたが、今回はくるぶしが水につかるくらいのところまで川に入って、エサを付けた仕掛けを魚がいそうな流れの場所に投げる方法にしました。

当日は秋晴れで夏のように暑かったのですが、参加者みんなが魚を釣ることができて、ばっちりでした！釣った後は、どんな魚が釣れたのか観察して(オイカワ・ウグイ・カワムツ・タモロコ・ヌマチチブがいました！)子供たちの手でリリースしました。

実はこの釣りイベント、本来は5月末に実施予定だったのが大雨の影響で相模川が増水して秋に延期となった経緯があります。初夏の川には魚のエサとなる川虫が多く、釣りイベントも川虫を参加者が捕まえて、それをエサにして釣りをしようと考えていました。秋は川虫が少なく購入したエサを使いましたが、次回こそはエサ取りから始める釣り体験をやりたいと考えています。

いきもの観察会

2022年9月10日(土)

亀ヶ谷 千尋



今回で3回目の実施となるいきもの観察会。

毎回ご協力頂いている神奈川県立津久井湖城山公園は、森あり草原ありのいきもの観察に絶好の場所です。案内して下さるのは城山公園の生き物をよく知るスタッフの皆さんで、いつも植物から昆虫、哺乳類まで幅広く生き物について教えてくださいます。

いきもの観察会の面白いところは、“知っている”人と一緒に自然の中を歩くと、自分の見ている世界が何倍にも広がっていくことだと思います。

例えば、何も知らないと「ただの落ちた枝」であるものが、生き物をよく知る人と一緒に見ると、「ゾウムシの仲間“ハイロチョッキリ”が切り落とした枝」だったり、「ムササビがかじった枝」だったり、色々な生き物の存在やその行動に驚かされます。

参加頂いた皆さんも生き物に興味津々で、カラムシの葉っぱにたかった毛虫(フクラスズメの幼虫)も怖がらずに間近で観察していて、びっくりした毛虫がブンブンと体を振る様子に、さらに興味を引かれていました。

気温や天気、季節などで見ることのできる生き物も違い、次は何が見られるだろうと私も毎回楽しみにしているイベントです。



特別企画展

メダカ展

～意外と知らないメダカの世界～

ニグリマスメダカ

日本のメダカや世界のメダカ、 いろいろなメダカが大集合！

私たち日本人にとって身近な生き物として親しまれてきたメダカ。

近年では、人の手で驚くほど多彩なメダカが作り出され、

観賞魚としても注目が集まっています。

さらに、世界のメダカたちの中には一風変わった見た目や生態をもつものもいます。

“メダカ展”では、日本のメダカや世界のメダカたちについて紹介し、

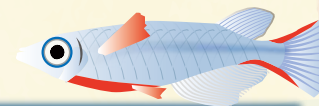
その驚くべき生態や魅力をお伝えしました。



キタノメダカ



ジャワメダカ



ハインメダカ



ドビンドピンメダカ



サラシンメダカ

展示飼育部

山田 一輝

企画者
コメント
Comment

メダカは特別な淡水魚だと思っています。なぜかといいますと、小さな子からシニアの方までほとんどの方が知っている淡水魚だからです！こんな淡水魚なかなかいません。詳しい見た目がわからなくても、田んぼや小川にいる小さな魚というイメージはお持ちなのではないでしょうか。このイメージが浸透しすぎてか、川にいる小魚は大体メダカと間違えられてしまうほどです。

ではなぜ誰もが知っているメダカを企画展のテーマに選んだのかといいますと、浸透したイメージとは違う、もしくは知られていないメダカの面白さがたくさんあると思ったためです！

実は、

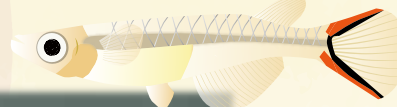
- ・メダカは日本以外にもいる！
- ・小さくないメダカがいる！
- ・メダカは海水でも生きられる！
- ・メダカは体の色が変わる！
- ・カラフルでキラキラなメダカがいる！…

などなど、「え！そうなの！」「どうして？」と思わせることばかりなのです。私自身、企画を進めていく中で「へー！そうなんだ！」と何度も驚かされました。

ご覧いただいたお客様も今回の企画展で、新しい発見とメダカの魅力を感じて頂けたのならとても嬉しく思います。



マーモラトゥスメダカ



メコンメダカ



ミナミメダカ



レッドラインハーフベイク

特別企画展

アマゾン展

～またまたアマゾンが来たゾ～ン～

ベニコングウインコ



多様な川が育む 多彩な生き物たち

南アメリカ大陸のアマゾン川流域に広がるアマゾン熱帯雨林は、地球上で最も生き物の多様性に富んでいる場所です。今なお多くの新種が発見されている一方で、急速な開発により熱帯雨林は年々減少しています。日本にいる私たちにとっては地球の裏側の出来事…のようですが、実はアマゾンの開発は全くの他人事ではありません。アマゾン川が育む多彩な魅力を持つ生き物たちや、熱帯雨林の現在に興味を持ってもらえたら…そんな思いで企画しました。

キンカジュ



ブラジルレインボーボア



スポットピンクカラシン



フタイロネコメガエル



アイソメヤドクガエル



展示飼育部
亀ヶ谷 千尋

企画者
コメント
Comment

大好評！アマゾン展パートⅡ！！

去年、好評を博した「アマゾン探検隊」。これぞアマゾン！というような生き物たちを厳選して展示しましたが、多様性の宝庫であるアマゾンには魅力あふれる生き物たちがたくさんいます。

「アマゾン探検隊」ではまだまだアマゾンを紹介しきれていない！アマゾンはもっとすごいんだ！…という意気込みで企画に取り掛かりましたが、あんな面白い生き物もあればこんな変わった生き物もある！…展示する生き物を決めるのも一苦労です。

会場は去年に引き続き、アマゾンの雰囲気少しでも感じてもらいたく、熱帯雨林仕様に。そして今回のこだわりの一つが「アマゾンの生き物 大きざくらべ」！アマゾンに生息する巨大生物の大きさを実感できるよう、実物大サイズのパネルを用意しました！

実際にパネルが設置されると、自分で企画しておきながら「こんなに大きいなんて…」とびっくりしてしまいました。

アマゾンの生き物はやっぱり人気があります。そしてアマゾンにはまだまだ多様な生き物がたくさんいます。アマゾン企画パートⅢもそう遠くないうちに実現するか！？

リーフフィッシュ



アストロノータス



ヒラタコモリガエル



バトラクスキャット



特別企画展 昔と今の 生き物展

～くらべてみよう！生き物のカタチ～

ティラノサウルス頭骨(レプリカ標本)



昔の生き物と今の生き物 その違いや共通点とは！？

大昔から生き物は環境変化に適応しながらその姿を変えてきました。
例えば現在、私たちと共に生きる鳥たちは、恐竜の生き残りとも言われています。
一方で、カブトガニのような生きた化石と呼ばれるほとんど姿を変えずに今に至るものや、
アンモナイトのように適応できず絶滅したものもあります。
化石となった生き物たちと、今を生きる生き物たちを比べると進化の歴史がわかります。
今回の企画展では古代の生き物が現代を生きるために
どのような姿になったのかをご紹介します。



モトイカブトカゲ



アンモナイトの化石と模型



オオグソクムシ



オウギバト



条鰭魚類の化石



フタユビアンフューマ



三葉虫、ウミサソリの化石



マダコ



展示飼育部
西田 征晃

企画者
コメント
Comment

タイトルだけを見ると、何を展示しているの？
と感じるかもしれない今回の企画展。
ここ1,2年はシンプルなテーマの企画展(アマ
ゾン、メダカ、ウーパールーパー、ネズミなど)
が多かったので、今回は一風変わったものをやっ
てみようとの思いもありました。
鳥好きな私は、鳥に関連した面白いトピックを
探していたところ、「鳥は恐竜だ！なんて話もある
よね。恐竜とかインパクトあっていいかも」と副
館長の何気ない一言が…
(たしかに恐竜と鳥の展示とか面白そう。そう
いえば、知り合いにダイナソーミュージアムの館
長がいたような)と思った私は、すぐにE館長に
電話をして、詳しい話を聞くと…
話が盛り上がり、そこからはとんとん拍子で企
画が進んでいきました。
多大なるご協力のもと、ティラノサウルス頭骨
の実物大標本(レプリカ)を筆頭に、様々な化石を
用いて、現代の生き物とのカタチを比較する展示
が実現しました。メインの鳥と恐竜についてだけ
でなく、魚類、両生類、爬虫類、哺乳類、節足動物、
軟体動物とブース分けをして、生き物の昔と今の
カタチを知っていただきました。
展示協力：TCA東京ECO動物海洋専門学校
DINOSAUR MUSEUM



ヌタウナギ



アフリカウシガエル



マダガスカルゴキブリ



ニシアフリカ
トカゲモドキ

サイエンスカフェ開催

企画展の開催に合わせて、鳥と恐竜についての専門家である山崎先生を
お招きして、サイエンスカフェ「鳥は恐竜だった！？」を開催しました。
鳥と恐竜についてのお話はもちろん、ワークシートを用いたクイズや写
真を見比べるコーナーなどもあり、あっという間の1時間となりました。
ご参加いただいた皆さんが楽しそうに聞いてくださっている様子を見て、
3年ぶりのサイエンスカフェでしたが、開催してよかったというのが率直
な気持ちです。次回のサイエンスカフェはどんな内容になるのでしょうか。



特別企画展

相模の カニ展

フタバカクガニ

紹介します！ 相模川のカニ全部！

相模川には、当館でおなじみのアカテガニやサワガニのほかにも
たくさんのカニがすんでいます。
その数なんと30種類以上！中には当館の飼育員が初記録した珍種もあります。
今回の企画展では、カニの中でも地元の種類にこだわって、
その魅力を紹介し、その生息環境としての
相模川の大切さをお伝えすることを目指しました。



タカアシガニ



アリアケモドキ



オオヒライソガニの仲間



ヒメアカイソガニ



カクベンケイガニ

企画者
コメント
Comment

展示飼育部
伊藤 寿茂

幼少期に父親に連れられて相模川へ釣りに行った
時のこと。川岸の土手に開いた穴から、たくさん
のカニが出入りしていました。釣りもそこそこカニ
採りに夢中になり、大きなクロベンケイガニを持ち
帰って飼育した記憶があります。大人になってから
もカニへの興味は尽きることなく、相模川や江の島
でカニの調査・研究を続けてきました。

今回の特別展は、そんな私のカニ人生の集大成で
す。自分の好きな生き物、研究対象とする生き物を
大々的に展示できるなんて、夢のようです。

展示にあたって、世界中で多様に進化したカニの
中から、変わった形や美しい色を持つ種類をチョイス
することも考えました。が、ここは妥協せず、派
手さはなくとも相模川にすむカニ、相模川にゆかり
のあるカニにこだわって展示することにしました。

とは言え、このままではマニアック過ぎるかな…
と思い、登場させたのがタカアシガニです。

言わずと知れた世界最大のカニで、相模川の先
にある海、相模湾が世界有数の漁場となっています。
旧知の漁師さんをお願いして、ベストなサイズの展
示ができませんでした。

展示したカニは、標本展示も含めて相模川の確
認種をほぼ全て、網羅することができました。南国の
マングローブ林を忍者のごとく疾走するフタバカク
ガニや、オールのような脚で水面を自在に泳ぐオオ
ヒライソガニの仲間、私が相模川から初記録したタ
イワンヒライソモドキやハシリイワガニモドキな
ど、他ではめったに見られない珍奇なカニのオンパ
レードとなりました。

この企画展を通して、現在の相模川にも多くのカ
ニたちがくらしていることを知って頂けたなら、嬉
しいです。



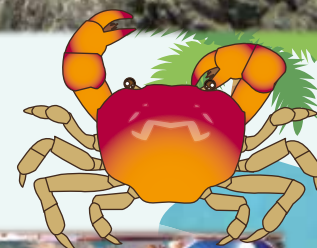
ケフサイソガニ



アミメノコギリガザミ



イボショウジンガニの仲間



2022 年

1月 海の虎に初詣



2022年の干支はトラ。そこで1月は名前にトラをもつ魚、トラウツボをご紹介します。まだ模様やしな模様、長い鼻管やすごい歯などユニークな姿をご覧ください。

2月 ミドリフグ



2月の節分には邪気をはらい、福を招くよう豆まきをします。鬼の対として出てくる“お福さん”。2月のマンスリー水槽ではお福さんのようにふくらとした見た目のミドリフグをご紹介します。

3月 春のいろ



春になると、桜や菜の花が見頃を迎えます。金魚の仲間の桜コメットとイエローコメットは、まるで花びらが舞うように泳ぎ、春のいろを感じさせてくれました。

4月 春に咲く花



春は様々な花が咲く季節です。小さな花をぶどうの房のように咲かせる藤の花もその一つです。イトヒキテンジクダイは、少し透けた体と藤色に輝く目が特徴的な魚です。

5月 五月飾りは兜ガニ！



五月飾りといえば兜。そして兜といえばカブトガニ。そんな発想からアメリカカブトガニをご紹介します。さまざまな五月らしいオーナメントの中を動き回る姿をご覧ください。

6月 梅雨には雨傘



6月は梅雨の時期ということもあり、雨傘の出番が多くなります。そこで、体の形が雨傘に似ているミズクラゲを、雨が降っているかのようなレイアウトで展示しました。

7月 海でもセミ採り!?



一昔前の夏の遊びと言えば、お外でセミ採りだ！ということで、セミエビを展示しました。水槽内に設置した人工の木につかまるセミエビを、貴重な脱皮殻とともにご覧頂きました。

8月 蚊はキライ？



気づくと刺されてかゆい…夏の嫌われ者の蚊。カダヤシという魚は蚊の幼虫を食べることから“蚊絶やし”と名付けられました。カダヤシの仲間のエンドラーズライブベアラーを展示しました。

9月 魚でお月見



9月と言えば十五夜、お月見にちなんで、月光の名を持つ魚「ムーンライトグラミー」を展示しました。月の形をしたライトに照らされて、体が白銀に輝く様子をご覧ください。

10月 今夜はスリラーナイト



ゆらゆらと泳ぐブラックゴースト、黄色い目で見つめるバンバイアクラブ。2種の特徴的な姿を、ハロウィンの装飾とかわいいオバケたちの中でご紹介しました。

11月 ワールドカップ開幕！



2022サッカーワールドカップの開幕に合わせて、2種類のコリドラスを11匹ずつ展示しました。水槽内ではサッカーのグラウンドを細かく再現しました。

12月 寒い日には



寒い日、外を見てみると水に透きとおった氷がはっています。魚の中には氷のように透き通った体を持つものがあります。東南アジアなどに生息するインディアングラスフィッシュもその一つです。

生き物たちの持つ“すごい能力”を、実験を通じて体感できるのがこのミニトーク水槽です。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、平日のみ実験を行いましたが、土日祝日でも楽しめるように動画でその能力を紹介したり、クイズ形式の解説に挑戦していただきました。

口から水鉄砲!?
テッポウウオ

生物種：テッポウウオ

期間：2022.3/8～6/12

テッポウウオは口から水を飛ばして、水の外にいる昆虫などを打ち落とすことができるちょっと変わった魚です。1m近くも飛ばすことができるその秘密は、口の中にあります。実際にテッポウウオが水を飛ばす様子を観察しながら、その仕組みについて解説しました。



カラッパの噴水の謎をとけ！

生物種：トラフカラッパ、メガネカラッパ、マルソデカラッパ

期間：2022.6/14～11/6

カニの仲間のカラッパは普段は海の砂地に潜って隠れていますが、体が水から出そうになると、体のてっぺんからまるで噴水のように水を出します。この噴水の正体は、呼吸の際に吐き出す水なのですが、自動で水位が変わる水槽を作り、約5分おきに噴水が見られる展示にしました。



発電する魚！
デンキウナギ

生物種：デンキウナギ

期間：2022.11/8～12/25

デンキウナギは、とても強い電気を体内で作ることができる魚です。この電気をを使って、エサとなる生き物を仕留めたり、襲ってきた敵を倒したりします。デンキウナギが電気を出す様子を、光と音で体感していただく展示にしました。また、12月にはクリスマスツリーのイルミネーションが連動して光るようにしました。



海の生き物水槽

リニューアル展示について

当館にある「海の生き物水槽」は、2022年6月にリニューアル工事を行いました。旧「海の生き物水槽」は、水槽系統や展装面の設計において、一部仮設の状態が続いていました。そこで、仮設から常設へのブラッシュアップを目的として、リニューアルすることになりました。新たな水槽は、観覧面が広く、位置は低くなったためお子様でも見やすい設計となっています。さらに、水槽の横にモニターを設置したことで、今までと違い、映像を用いた生き物の紹介もできるようになりました。



さかさまになって泳ぎます！

生物種：ヘコアユ



口を下にして逆立ちのような姿勢で泳ぐヘコアユについて、体のつくりや身をまもるための方法、逃げる時の泳ぎ方などをご紹介します。期間：2022.1/18～4/7

「あし」のある魚！？

生物種：ホウボウ



胸ビレの付け根に、3対の「あし」のようなものがあるホウボウについて、その役割などをご紹介します。併せて、獲物を探して食べる様子を動画でご覧いただきました。期間：2022.4/7～6/12

きれいな花にはトゲがある！？

生物種：ミノカサゴ、ハナミノカサゴ、ネタイミノカサゴ



大きな鰭を広げてひらひらと泳ぐ姿が、まるできれいな花のように見えるミノカサゴの仲間について、「実は毒のあるトゲを持っている」など体の特徴をご紹介します。期間：2022.6/14～9/4

ながーい体は砂の中

生物種：チンアナゴ



細長い体の特徴で、ほとんどの時間を砂の中で暮らしているチンアナゴについて、もぐり方など、その生態についてご紹介しました。併せて、砂にもぐる様子を動画でご覧いただきました。期間：2022.9/6～11/27

魚のしま模様 たてじま？よこじま？どっち？

生物種：キンセンイシモチ、ヒレナガハギ、クマノミ、ニセモチノウオ



魚のしま模様について、「たてじま」と「よこじま」の見分け方を動画で分かりやすくご紹介しました。「たてじま」は、キンセンイシモチとニセモチノウオを、「よこじま」は、ヒレナガハギとクマノミを展示しました。期間：2022.11/29～2023.2/26

小川の実験観察テーブル

ウロコってなんだろう？

生物種：ギンブナ、ナマズ



魚のウロコについて、役割や種類を中心にご紹介しました。ウロコのある魚としてギンブナを、ない魚としてナマズを展示し、虫メガネでウロコの観察ができるようにしました。併せて、ピラルクーやマダイ、ウグイなどのウロコの標本も展示しました。期間：2022.1/3～4/24

アマガエルは何色？

生物種：ニホンアマガエル



身近なカエル、ニホンアマガエルが周囲の環境によって体色を変える様子を、緑色と茶色の2種類の環境で観察していただきました。期間：2022.4/26～5/29

ここがちがうよ！ タニシとリンゴガイ

生物種：スクミリンゴガイ、タニシの仲間



田んぼにすむよく似た2種類の巻貝を観察して、違いを見分けて頂きました。解説ではそれぞれの巻貝が持つ変わった生態も紹介しました。期間：2022.5/31～7/10

水の上を走る虫たちのヒミツ！

生物種：ツマキレオナガミズスマシ、オオアメンボ



水に浮かぶ虫たちはどうやって浮いているのか。そして浮かぶだけでなく、行きたい方へ泳ぎ、獲物をつかまえる技のヒミツについてご紹介しました。期間：2022.7/11～9/4

クチボソもいろいろ

生物種：シナイモツゴ、モツゴ



関東でクチボソと呼ばれるシナイモツゴとモツゴは、見た目はそっくりですが、一方は絶滅危惧種で一方は普通種という対極の状況にあります。自然界で一体何が起きているのか2種の展示を通してご紹介しました。期間：2022.9/6～11/27

このエビ、なんだ？

生物種：スジエビ属の一種、ヤマトヌマエビ、カワリヌマエビの仲間、アメリカザリガニ



“このエビ、なんだ？”見つけたエビを見て、そう思ったことはありませんか？ 代表的な淡水のエビを用いて、本来ならば難しいエビの仲間の見分け方を、エビの基礎から簡潔にご紹介しました。期間：2022.11/29～2023.4/9

水辺の生き物水槽

生物種：カヤネズミ、ニホンイシガメ、アオダイショウ、ニホンアマガエル

今年度の水辺の生き物水槽では、ニホンアマガエルが登場しました。私たちに一番身近なカエルであるニホンアマガエルですが、なんと常設展示では展示していませんでした。本来であれば、「両生類水槽」で展示していてもおかしくないのですが、実はアマガエルは両生類水槽では展示がしづらいカエルなのです。というのも、アマガエルは木の上など高い場所でくらすカエルなので、両生類水槽で展示すると水槽の一番高いところに登ってしまい、よく見えなくなってしまうのです。水辺の生き物水槽では、よく茂ったシュロの葉っぱの上などに乗っかり、愛嬌ある姿で皆さんの注目を集めていました。



カヤネズミ



ニホンアマガエル



アオダイショウ



ニホンイシガメ



インターンシップ・学芸員実習

期間：2022年5月～12月

2022年は例年にも増して、多くの方が当館でのインターンシップに参加しました。コロナ禍の影響もあり、こうした体験の受け入れを休止している施設が多いことも影響したと思われます。大学生の学芸員過程の実習としての受け入れが主でしたが、専門学校生の職場体験や、小中学校の教員研修としての受け入れもありました。一部の学生には「実習生による水槽展示」の制作や、館内イベント「ポイントガイド」の実演を最終課題として担って頂きました。この体験を今後の社会人生活に生かして欲しいと願っています。



ものづくりワークショップ

営業・管理部 熊田 奈津子

2014年から始まったものづくりワークショップは今年で8年目になりました。2022年も多くのお客様にご参加いただきました。それぞれの内容に基本の作り方はありますが、皆様の自由な発想でいろんな作品が出来上がります。お客様の作品をみていると、あっと驚かされるようなものや、気付かされるものなどがあります。どんな作品が出来上がるのか、日々ワクワクしています。「楽しかった！また作りたいね」「あの時これつくったね」「今度これをつくりたいな」など初めてご来館した方やいつも来てくださる方からいただく言葉は、担当者としても嬉しい限りです。ものづくりワークショップは小さなお子様から大人の方までどなたでもご参加いただけます。ご来館の際は、是非多目的室2へ遊びに来てくださいね！

ものづくりワークショップ一覧(2022年1月1日～12月31日)

空を泳げ！いきもの風づくり	1月 1日(土)～ 1月30日(日)の土日祝日 (冬休み期間 1月1日～1月7日は毎日開催)	有料
でんでんおさかな太鼓	1月11日(火)～ 2月10日(木)の平日	無料
水辺のリフレクター	2月 5日(土)～ 3月13日(日)の土日	有料
ぼんぼん風船	2月15日(火)～ 3月18日(金)の平日	無料
ピカピカおさかなタマゴ	3月19日(土)～ 4月17日(日)の土日祝日 (春休み期間 3月19日～4月3日は毎日開催)	有料
いきものフラッグ	4月 4日(月)～ 5月31日(火)の平日	無料
ぼんぼんスタンプトート	4月23日(土)～ 5月22日(日)の土日祝日	有料
ゆらゆら風鈴	6月 1日(水)～ 7月22日(金)の平日	無料
カクカクおさかなマグネット	5月28日(土)～ 7月 9日(土)の土日	有料
ミニミニボトルアクアリウム	7月16日(土)～ 8月28日(日)の土日祝日 (夏休み期間 7月23日～8月28日は毎日開催)	有料
ひかりであそぼう！おさかなサンキャッチャー	8月29日(月)～10月28日(金)の平日	無料
こるくキーホルダー	9月 3日(土)～10月10日(月)の土日祝日	有料
こすっておえかき！いきものフレーム	10月15日(土)～11月23日(水)の土日祝日	有料
水辺の切り抜きミニカード	11月 1日(火)～12月23日(金)の平日	無料
スノードームすいそくかん	11月26日(土)～12月25日(日)の土日	有料
いきもの風づくり	12月26日(月)～12月31日(土)の土日祝日 (冬休み期間 12月26日～12月31日は毎日開催)	有料



多目的室2では、写真家の伊藤洋佑さんが撮影した相模川にくらす様々な生き物の写真を展示しています。大きな生き物から小さな生き物、季節ならではのいろんな姿を見ることができます。

相模川のともだち一覧(2022年1月～12月)

1月 カイツブリ	7月 アカハネナガウンカ
2月 アオジ	8月 ツチイナゴ
3月 ゴマダラチョウ(幼虫)	9月 シマヘビ
4月 オシドリ	10月 ツチイナゴ
5月 コジュケイ	11月 カジカガエル
6月 オオゴマダラエダシャク(中齢幼虫)	12月 トビ



■アクセス Access



無料駐車場有
99台

電車
バス
ご利用

JR横浜線 相模原駅南口より神奈川中央交通バス
「水郷田名」行き「ふれあい科学館前」バス停下車すぐ

車を
ご利用

国道16号線 相模原駅入口 県道503号 上溝 県道54号 相模川ふれあい科学館
圏央道 相模原愛川IC 国道129号 上溝バイパス 県道54号

■入館料金(税込)

区分	個人	年間パスポート	団体(20名以上)
大人(高校生以上)	450円	1,350円	360円
小人(小・中学生)	150円	450円	120円
シニア(65歳以上)	220円	660円	170円
幼児(小学校就学前) 障がい者と同伴者1名※ ひとり親家族等※	無料		

※については、入館時に証明できる各種証明書(またはその写し)のご提示が必要です。

■開館時間 9:30 ~ 16:30

イベント開催等により営業時間変更の場合あり

■休館日 月曜日(月曜日が祝日等の場合は開館)

ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館



運営会社のご紹介

2014年1月より、相模原市から指定管理業務を受諾させていただいております株式会社江ノ島マリンコーポレーションは、下記水族館の運営業務も行っております。



相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションに立地する「新江ノ島水族館」は、“わくわくドキドキ冒険水族館”をコンセプトにしています。



日本や世界の淡水域に生息する生物を紹介している「世界淡水魚園水族館 アqua・トトギス」は、岐阜県によって整備され環境学習体験を実践する場として親しまれています。



〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
TEL.042-762-2110 FAX.042-761-2665
<https://sagamigawa-fureai.com/>

相模川ふれあい科学館 検索

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション 【第一種動物取扱業の実施に係る掲示】氏名又は名称：相模原市 事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館 事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1 動物取扱業の種別：展示 動物取扱業の登録番号：生衛 第204-00012号 登録年月日：2014年3月10日 登録の有効期限の末日：2024年3月9日 動物取扱責任者の氏名：亀ヶ谷 千尋

